

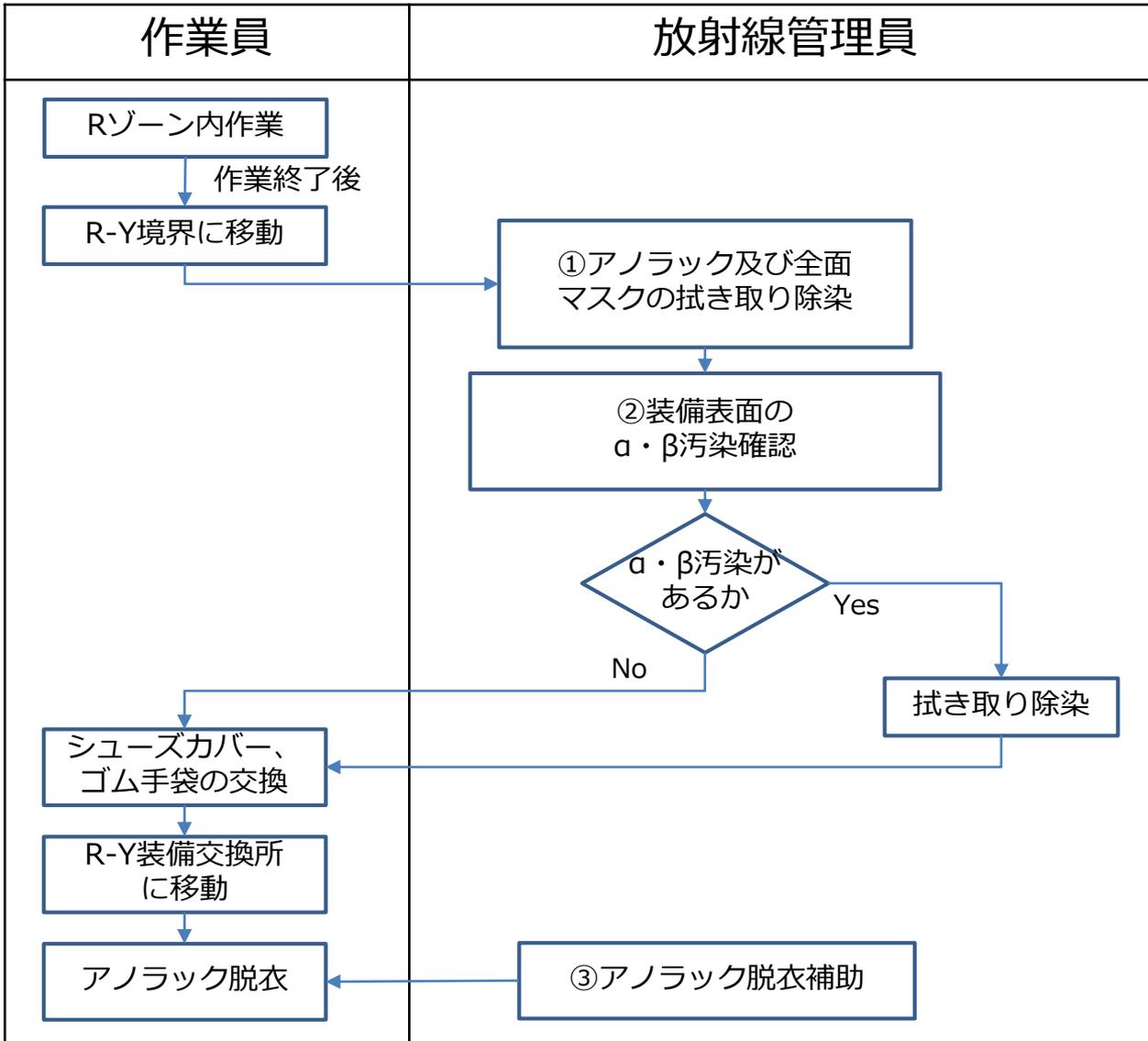
# R zone・Razone退域時の脱衣方法及び 全面マスク用アノラック運用状況について

2022年2月7日

---

東京電力ホールディングス株式会社

# 1. R (Ra) ゾーン退域から除染までのフロー



拭き取り除染の実施



表面汚染密度 (β) の測定

# ①アノラック及び全面マスクの拭き取り除染

## 1. 全面マスク拭き取り除染



全面マスク、身体（アノラック）の表面を濡れウエス等で拭き取り、除染する。

放射線管理員は、拭き取り除染を各3回実施し、拭き取り除染を行う都度、濡れウエスとゴム手袋を交換する。

なお、拭き取り除染を実施しても汚染が残存している場合は、テープ等で汚染を固定する。

## 2. 身体拭き取り除染



## ② 装備表面の $\alpha$ ・ $\beta$ 汚染確認

### 1. $\alpha$ 汚染確認

Razone又はRzone-Yzoneの境界でスミアろ紙で全面マスク、身体（アノラック）の表面の汚染を採取し、 $\alpha$ シンチレーション測定器で測定する。



### 2. $\beta$ 汚染確認

$\alpha$ 汚染確認に使用したスミアろ紙を使用し、GM管式サーベイメータで測定する。



### ③アノラック脱衣（1 / 2）

脱衣時は、汚染が伝播するリスクを考慮し、脱衣補助者（放射線管理員）が付いて、作業者のアノラック脱衣を行っている。

#### 1. アノラック（上）脱衣

脱衣補助者はハサミや安全カッターを用いてアノラックを切り開いて脱衣をさせる。なお、使用したハサミや安全カッターは、適宜濡れウエス等で拭き取り、汚染拡大防止を図っている。



#### 2. アノラック（下）脱衣

脱衣補助者はハサミや安全カッターを用いてアノラックを切り開いて脱衣をさせる。

なお、使用したハサミや安全カッターは、適宜濡れウエス等で拭き取り、汚染拡大防止を図っている。



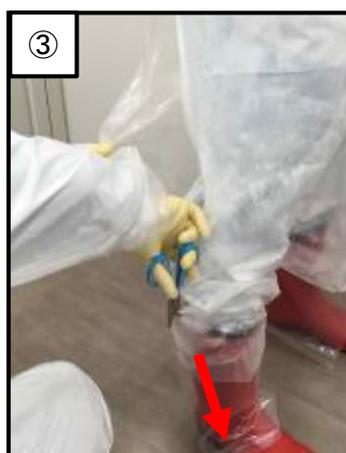
①

アノラックを横から切り開く。  
(上から下に向かって切る)



②

反対側も同様に切り開く。  
(上から下に向かって切る)



③

アノラックの裾口を切りきる。  
(裾口の絞り加工用のゴムも切る)



④

アノラックの肩掛け紐(2本)をハサミ等で切り、下に向かって脱衣させる。



⑤

アノラックは出来る限り、外側の面が露出しないよう内側に丸めて廃棄する。

## 2. 全面マスク用アノラック運用状況

マスクタイプ（メーカー）	対応状況
全面マスク （A社製）	 <p>2020年度に仕様検討が完了。 12,000着を製作し、2021年10月より運用開始。</p>
全面マスク （B社製）	 <p>今年度導入したA社製全面マスクと、共通で使用できるようA社製用アノラックを改良中。 2022年4月以降配備開始予定。</p>
電動ファン付き全面マスク （A社製）	 <p>試着テストを実施しており、アノラックの曇り対策を検討中。 配備時期については未定。</p>
電動ファン付き全面マスク （B社製）	